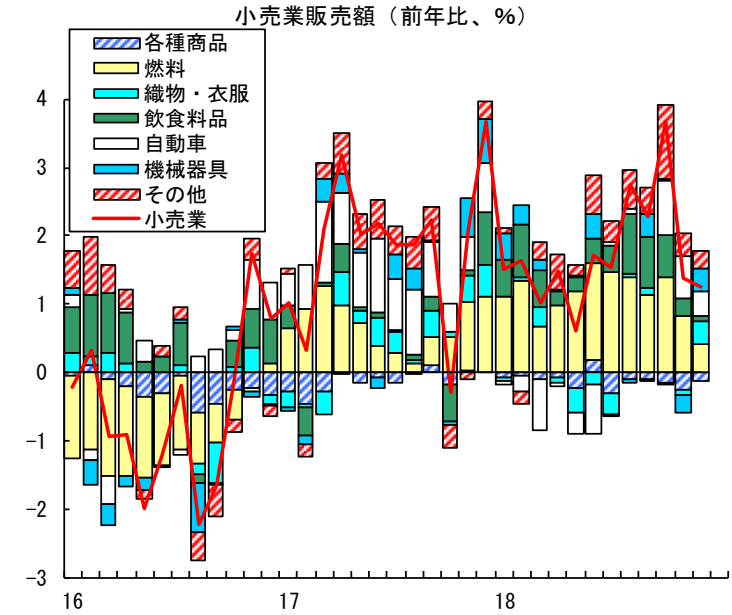
Economic Indicators

発表日:2019 年1月 30 日(水)

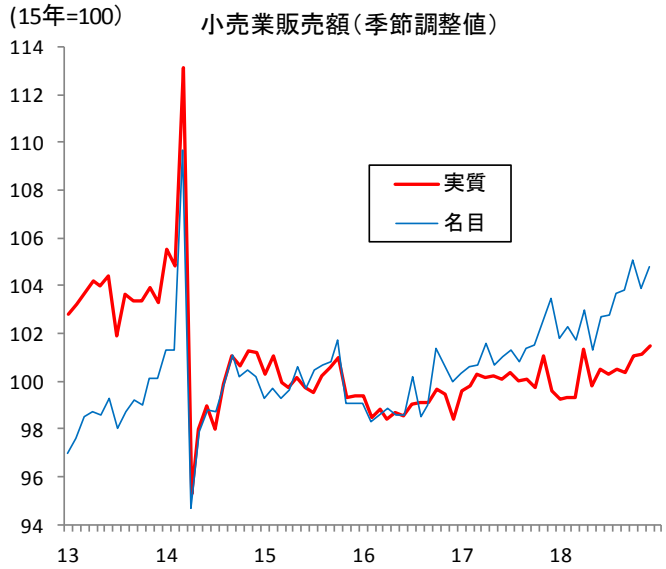
小売業販売額(2018 年 12 月)

～好材料が重なり、10-12 月期の個人消費は増加～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴(TEL:03-5221-4528)



(出所)経済産業省「商業動態統計」

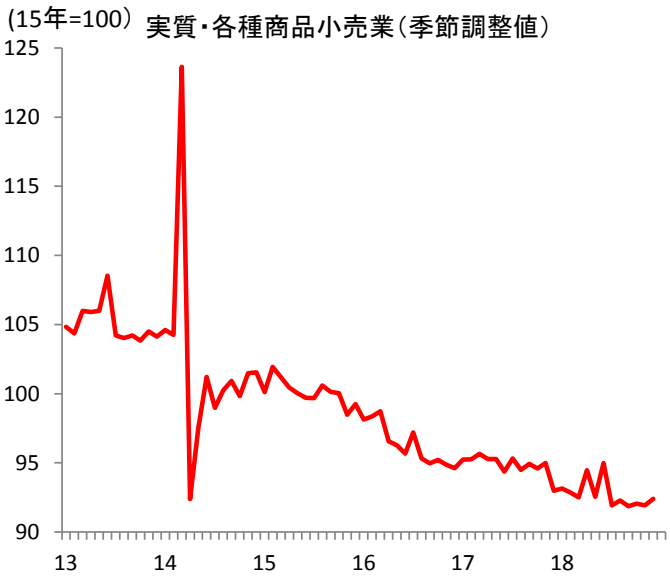


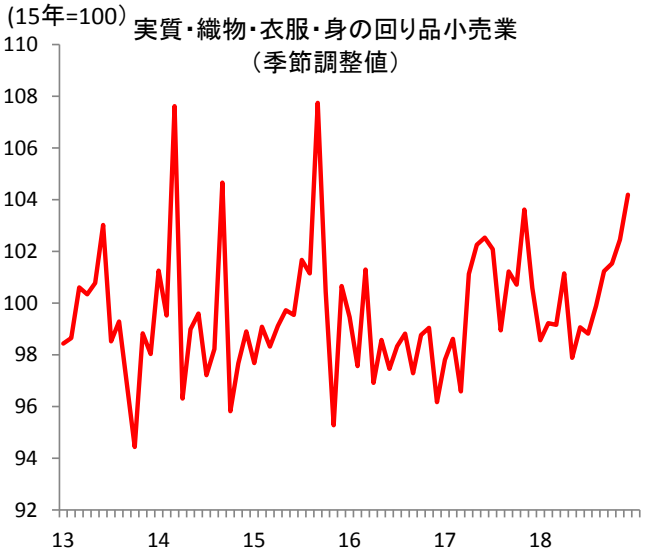
(出所)経済産業省「商業動態統計」
(注)実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

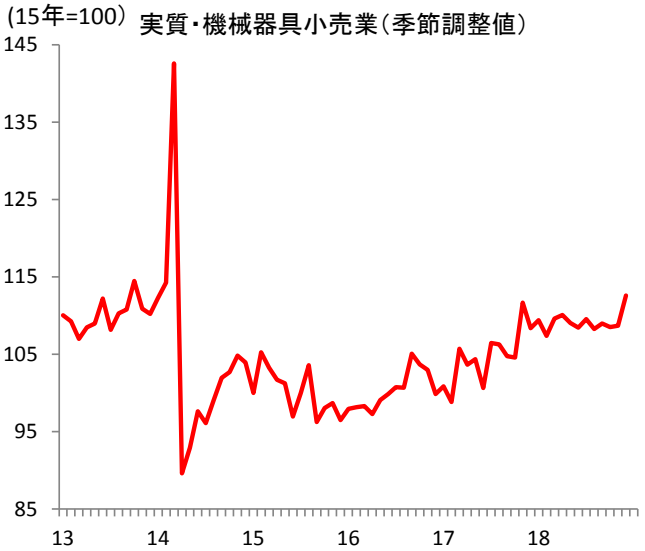
経済産業省から公表された 18 年 12 月の小売業販売額は前年比＋1.3%と、市場の事前予想である＋0.8%を上回った。季節調整済み前月比でも＋0.9%と増加しており、強い結果といって良いだろう。10-12 月期でみても前期比＋1.1%とはっきり増加している。

また、価格変動の影響を考慮した実質値（実質化と季節調整は筆者）でみても前月比＋0.4%（11 月：横ばい）、10-12 月期も前期比＋0.8%となっており、実質値でも持ち直していることが確認できる。７－９月期には、相次いだ台風等の天候不順による外出機会の抑制、野菜価格やエネルギー価格の高騰などが下押し要因になったことで前期比▲0.1%と低調に推移していたが、10-12 月期の財消費はリバウンドしたことが確認できる。加えて、サービス消費についても 10、11 月と比較的良好に推移したことを踏まえると、ＧＤＰベースでも 10-12 月期の個人消費は明確な増加に転じる可能性が高いと思われる。①７－９月期の天候不順による下押しが解消されたこと、②高騰していた野菜価格が 10 月末以降は落ち着きを見せたこと、③原油価格下落に伴ってガソリン・灯油価格が下落したこと、④冬のボーナス増加等、好材料が重なったことが 10-12 月期の消費を押し上げたものとみられる。

先行きについても、エネルギー価格下落によって実質購買力が下支えされることや、雇用、賃金の緩やかな増加などを背景として、個人消費は緩やかな増加が期待できる。海外経済の減速にともなって輸出が足踏み状態に陥り、景気の回復ペースも鈍るなか、この点は数少ない好材料と言えるだろう。







（出所）経済産業省「商業動態統計」

（注）実質化及び実質値の季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。